

医療費を抑えるジェネリック医薬品のススメ

健康エクспレス No. 3 3

日本では保険診療により医療費は一定。でも、最近耳にすることが多くなったジェネリック医薬品(後発医薬品)を使用すると、医療費が抑えられる場合があります。今回のテーマはジェネリック医薬品です。

新薬とは？ ジェネリック医薬品とは？

(1) 医療用医薬品について

医薬品は大きく二つに分けられています。私たちがドラッグストアなどの店頭で直接購入できる「一般用医薬品」と、医師の処方箋により病院内で提供され、または薬局で処方箋を提出して購入する「医療用医薬品」の二種類です。今回のジェネリック医薬品は後者に該当します。

(2) 新薬(先発医薬品)とは

「新薬」とは最近、開発された医薬品だけを指すものではありません。医薬品はその安全性と有効性を確認するため、発売に至るまでの開発期間は通常、10年を超えるものとなります。そのため、医薬品の特許の有効期間は20~25年間となっており、メーカーが独占的に販売して、開発コストをこの間で回収する仕組みとなっています。このように、最初に特許を取得した医薬品は「新薬または先発医薬品」と呼ばれます。しかし、特許が切れた後もこれらの医薬品は「新薬」と呼ばれています。したがって、「新薬」と呼ばれている医薬品の中には、すでに発売後、20年超になっている医薬品があるのです。

(3) ジェネリック医薬品(後発医薬品)とは

「ジェネリック医薬品または後発医薬品」と呼ばれている医薬品は「新薬」の特許が切れた後、「新薬」の成分に基づいて別のメーカーが製造、販売しているものです。成分が同じであることから、その効果は「新薬」と同じです。ところで、私たちが「ジェネリック医薬品」の恩恵を一番受けられるポイントはその価格、つまり医療費です。通常、「ジェネリック医薬品」は開発コストを価格に反映させる必要が比較的少なく、同じ疾病の医薬品同士で「新薬」と比較した場合、「ジェネリック医薬品」の方が安価であるケースがほとんどです。右表はある一患者の一年間の医薬品代を両者で比較した事例です。医薬品工業協会によると、「新薬」に替えて「ジェネリック医薬品」を使用すると、日本全体で見した場合、医療費の削減効果は年間1兆1300億円になるとも言われています。

【年間医薬品代比較の例】

ジェネリック	VS	新薬
¥7,670	高脂血症	¥14,240
¥2,190	高血圧	¥9,860
¥2,190	糖尿病	¥6,570

国民健康保険・自己負担3割の方のケース
(医薬品代のみ比較)

使ってみたいジェネリック医薬品

(1) ジェネリック医薬品は浸透している？

欧米では医療用医薬品の中で「ジェネリック医薬品」の占める割合は50%(数量ベース)を超えていると言われています。一方、日本ではまだそのシェアが低く、浸透しているとは言えません。しかしながら、医療費の抑制を目指す政府の方針で、この「ジェネリック医薬品」を後押しする政策が展開され始めました。今年、4月に厚生労働省は処方箋の記入方法を変更したため、患者は「ジェネリック医薬品」を選択できる場合がでてきました。具体的には、通常、薬剤師は医師が処方箋に記入した医薬品以外を患者に渡すことはできないのですが、処方箋の『後発薬への変更可』という欄に医師の署名があれば、患者の希望により「ジェネリック医薬品」の選択が可能となりました。

(2) ジェネリック医薬品を利用するためには

「ジェネリック医薬品」は多くの種類がありますが、すべての「医療用医薬品」に「ジェネリック医薬品」があるとは限りません。まずは、担当医師や薬剤師に自分の服用している医薬品に「ジェネリック医薬品」があるかどうか、聞いてみましょう。

また、日本ジェネリック研究会のホームページでは、「新薬」の名称を入力することで、同種同規格の「ジェネリック医薬品」を調べることができます。

(『患者さんの薬箱 http://www.generic.gr.jp/index_sr.php』)

《皆様の安心と安全のプレイントラスト(専門顧問グループ)》

株式会社ヤシロエージェンシーリミテッド 担当：八城一浩

〒107-0052 東京都港区赤坂3-1-2 AU 赤坂ビル4F TEL 03-3582-4511

